

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和6年2月29日

関東運輸局

評価対象事業名： 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考
							評価結果	
茨城県地域交通政策推進協議会	茨城交通株式会社	大宮営業所～中瓜連～水戸駅線の運行 ※車両減価償却費等国庫補助活用	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・那珂市役所と連携し、沿線の中学3年生へ時刻表チラシの配布310部(R05.02) ・大宮中・大宮二中の中学3年生へ時刻表チラシの配布230部(R05.02) ・水戸市・那珂市・常陸大宮市と連携し、中学3年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)2,995部 ・常陸大宮市立明峰中にてバスの乗り方教室開催(R05.07) ・バスロケサービスの周知活動 ・その他:常陸大宮市高齢者免許証自主返納者に対するバス運賃助成制度の継続実施	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】 ○1日当り輸送量 20.8人 ○収支率 41.75% ○収入増 490千円/年 ○輸送人員 1,783人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 23.7人(+2.9人) ○収支率 40.15%(△1.60%) ○収入 18,410千円(+15.74%) ○輸送人員 65,333人(+13.64%) 収支率以外は目標を達成した。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況については、概ね目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に務めること。 ・乗降調査による利用状況をもとに県や市町、関係機関と連携し助成制度や企画乗車券などの利用促進策を実施したことは評価できる。引き続き生産性向上の取組を実施することが望ましい。	
	茨城交通株式会社	浜田営業所～石塚車庫～御前山車庫線の運行	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・茨城大学生が企画した観光周遊に関する企画乗車券を城里町道の駅と連携し、継続発売(HP掲載) ・企画乗車券に対して地域共通クーポン(いば旅)の利用申請をして利用促進を図った。 ・城里町との連携で沿線中学生へのチラシの配布 ・城里町全戸、常陸大宮市沿線地区へチラシの配布・城里町との連携で城里コミュニティセンターにてICカードの出張販売を実施(月1回) ・水戸市・城里町・常陸大宮市と連携し、中学3年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)2,625部 ・常陸大宮市立明峰中にてバスの乗り方教室開催(R05.07) ・バスロケサービスの周知活動	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【目標】 ○1日当り輸送量 37.3人 ○収支率 60.24% ○収入増 800千円/年 ○輸送人員 2,611人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 42.6人(+5.3人) ○収支率 62.41%(+2.17%) ○収入 46,841千円(+15.12%) ○輸送人員 154,799人(+16.85%) 輸送量、収支率、収入、輸送人員とも目標を達成しました。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考	
							評価結果		
茨城県地域交通政策推進協議会	茨城交通株式会社	太田営業所～小中車庫～里川入口線の運行 ※車両減価償却費等国庫補助活用	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・マイ時刻表の継続配布 ・路線バスツアーの実施(R04.11里美地区 2回) ・常陸太田市・日立市と連携し、中学3年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)1,689部 ・常陸太田市との連携で、中学生向け年間フリー乗車券の配布(約940名)(R05.04) ・市内高校での定期券出張販売を実施(R05.04) ・バスロケサービスの周知活動 ・その他:常陸太田市75歳以上高齢者の運賃半額助成制度の継続実施 ・その他:常陸太田市運転免許証自主返納者に対するバス運賃助成制度の継続実施	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	【目標】 ○1日当り輸送量 10.2人 ○収支率 22.55% ○収入増 460千円/年 ○輸送人員 2,236人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 10.6人(+0.4人) ○収支率 14.10%(△8.45%) ○収入 6,040千円(△1.04%) ○輸送人員 29,956人(+3.02%) 輸送量、輸送人員以外は目標には届かなかった。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。	
	茨城交通株式会社	水戸駅～桜ノ牧高校前～水戸医療センター線の運行	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・令和4年12月に利用実態より、一部ダイヤ改正を実施(水戸駅発) ・水戸市・茨城町と連携し、中学3年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)2,435部 ・沿線地区(桜の郷地内)へのバスマップのポスティングの実施(R05.03) ・高校・大学での定期券出張販売を実施(R05.04) ・沿線施設への時刻表設置依頼(水戸医療センターに隣接する薬局等) ・バスロケサービスの周知活動	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	【目標】 ○1日当り輸送量 43.1人 ○収支率 57.96% ○収入増 420千円/年 ○輸送人員 1,778人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 53.7人(+10.6人) ○収支率 63.95%(+5.99%) ○収入 25,676千円(+22.80%) ○輸送人員 102,988人(+18.69%) 輸送量、収支率、収入、輸送人員とも目標を達成しました。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。	
	茨城交通株式会社	茨大前営業所～アクアワールド大洗～那珂湊駅線の運行 ※車両減価償却費等国庫補助活用	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・茨城大学生が企画した観光周遊に関する企画乗車券を、継続発売(HP掲載) ・企画乗車券に地域共通クーポン(いば旅)利用の申請して利用促進を図った。 ・水戸市・ひたちなか市と連携し、中学3年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)3,651部 ・高校・大学での定期券出張販売を実施(R05.04) ・バスロケサービスの周知活動	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	【目標】 ○1日当り輸送量 56.1人 ○収支率 62.79% ○収入増 840千円/年 ○輸送人員 3,239人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 73.4人(+17.3人) ○収支率 74.97%(+12.18%) ○収入 60,373千円(+32.72%) ○輸送人員 215,275人(+24.03%) 輸送量、収支率、収入、輸送人員とも目標を達成した。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。	
	茨城交通株式会社	茨大前営業所～東大野～平磯中学校下線の運行 ※車両減価償却費等国庫補助活用	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・水戸市・ひたちなか市と連携し、中学3年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)3,481部 ・高校・大学での定期券出張販売を実施(R05.04) ・バスロケサービスの周知活動	B	事業が計画に位置づけられたとおり実施されていない点があった。	B	【目標】 ○1日当り輸送量 46.4人 ○収支率 56.81% ○収入増 750千円/年 ○輸送人員 3,243人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 52.4人(+6.0人) ○収支率 56.55%(△0.26%) ○収入 40,306千円(+11.31%) ○輸送人員 173,053人(+11.82%) 収支率以外は目標を達成した。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考	
							評価結果		
茨城県地域交通政策推進協議会	茨城交通株式会社	水戸駅～旭台団地入口～友部駅線の運行 ※車両減価償却費等国庫補助活用	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・翼保育園、鯉淵小学校でバスの乗り方教室を実施(R04.11) ・友部第二小でバスの乗り方教室を実施(R05.01) ・沿線施設へ時刻表設置の依頼 ・水戸市と連携し、中学三年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)2,125部 ・沿線施設の茨城歯科専門学校や鯉淵学園での定期券出張販売を実施(R05.04) ・バスロケサービスの周知活動	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	【目標】 ○1日当り輸送量 18.3人 ○収支率 49.27% ○収入増 280千円/年 ○輸送人員 1,356人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 22.9人(+4.6人) ○収支率 52.65%(+3.38%) ○収入 14,017千円(+24.23%) ○輸送人員 65,278人(+20.91%) 輸送量、収支率、収入、輸送人員とも目標を達成しました。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。	
	茨城交通株式会社	赤塚駅南口～桜ノ牧高校前～水戸医療センター線の運行 ※車両減価償却費等国庫補助活用	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・水戸市・茨城町と連携し、中学三年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)2,435部 ・沿線地区(桜の郷地内)へのバスマップのポスティングの実施(R05.03) ・沿線施設への時刻表設置依頼(水戸医療センターに隣接する薬局等) ・高校・大学での定期券出張販売を実施(R05.04) ・バスロケサービスの周知活動	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	【目標】 ○1日当り輸送量 18.0人 ○収支率 39.29% ○収入増 130千円/年 ○輸送人員 545人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 18.0人(±0人) ○収支率 31.64%(△7.65%) ○収入 4,208千円(+1.20%) ○輸送人員 17,328人(+6.05%) 収支率以外は目標を達成した。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。	
	茨城交通株式会社	水戸駅～赤塚駅～イオンモール水戸内原線の運行 ※車両減価償却費等国庫補助活用	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・温浴施設(極楽湯)と連携した観光周遊に関する企画乗車券を継続販売 ・企画乗車券に地域共通クーポン(いば旅)の利用申請して、利用促進を図った。 ・水戸市と連携し、中学三年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)2,125部 ・イオンモール水戸内原店舗内へも時刻表の掲出を依頼 ・バスロケサービスの周知活動	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	【目標】 ○1日当り輸送量 50.8人 ○収支率 70.10% ○収入増 450千円/年 ○輸送人員 2,034人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 55.8人(+5.0人) ○収支率 69.70%(△0.40%) ○収入 30,183千円(+9.52%) ○輸送人員 135,386人(+9.71%) 収支率以外は目標を達成した。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。	
	茨城交通株式会社	水戸駅～石塚車庫～野口車庫線の運行	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・茨城大学生が企画した観光周遊に関する企画乗車券を城里町道の駅と連携し、継続発売(HI掲載) ・水戸市・城里町・常陸大宮市と連携し、中学三年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)2,625部 ・高校・大学での定期券出張販売を実施(R05.04) ・常陸大宮市立明峰中にてバスの乗り方教室開催(R05.07) ・城里町との連携で城里コミュニティセンターにてICカードの出張販売を実施(月1回) その他:常陸大宮市高齢者免許返納事業継続中 ・バスロケサービスの周知活動	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	【目標】 ○1日当り輸送量 35.6人 ○収支率 75.31% ○収入増 480千円/年 ○輸送人員 1,401人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 39.6人(+4.0人) ○収支率 77.93%(+2.62%) ○収入 35,850千円(+11.76%) ○輸送人員 101,997人(+9.86%) 輸送量、収支率、収入、輸送人員とも目標を達成した。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における 二次評価結果	備考
							評価結果	
茨城県地域交通政策推進協議会	茨城交通株式会社	水戸駅～国田局前～下江戸線の運行	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・コロナの影響により沿線学校での乗り方教室未実施 ・那珂市役所と連携し、沿線の中学3年生へ時刻表チラシの配布310部(R05.02) ・水戸市・那珂市と連携し、中学3年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)2,635部 ・高校・大学での定期券出張販売を実施(R05.04) ・バスロケサービスの周知活動	B 事業が計画に位置づけられたとおり実施されていない点があった。	B 【目標】 ○1日当り輸送量 14.0人 ○収支率 50.53% ○収入増 160千円/年 ○輸送人員 709人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 15.5人(+1.5人) ○収支率 48.05%(△2.48%) ○収入 7,584千円(+9.63%) ○輸送人員 31,824人(+8.97%) 収支率以外は目標を達成した。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。		
	茨城交通株式会社	茨大前営業所～勝田駅前～勝田営業所線の運行	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・ひたちなか市内の各種イベント(産業交流フェア、TAMARIBA横丁など)に参加しチラシを配布 ・水戸市・ひたちなか市と連携し、中学3年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)3,481部 ・商業施設でらっきバスを実施しチラシを配布(R05.03) ・ひたちなか市と連携し、市報へ定期券販売促進記事掲載(R05.03) ・市内高校にて定期券出張販売を実施(R05.04) ・バスロケサービスの周知活動	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【目標】 ○1日当り輸送量 28.8人 ○収支率 66.49% ○収入増 300千円/年 ○輸送人員 1,493人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 33.4人(+4.6人) ○収支率 68.78%(+2.29%) ○収入 19,893千円(+14.19%) ○輸送人員 96,312人(+12.27%) 輸送量、収支率、収入、輸送人員とも目標を達成した。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。		
	茨城交通株式会社	水戸駅～市毛十字～笠松運動公園前線の運行	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・水戸市・ひたちなか市と連携し、中学3年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)3,481部 ・企業向け通勤定期券の案内書を送付を実施(R05.02) ・ひたちなか市と連携し、市報へ定期券販売促進記事掲載(R05.03) ・県立高校にて定期券出張販売を実施(R05.04) ・バスロケサービスの周知活動	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【目標】 ○1日当り輸送量 25.2人 ○収支率 77.19% ○収入増 120千円/年 ○輸送人員 399人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 28.8人(+3.6人) ○収支率 82.29%(+5.10%) ○収入 9,881千円(+15.45%) ○輸送人員 30,678人(+13.13%) 輸送量、収支率、収入、輸送人員とも目標を達成した。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。		
	茨城交通株式会社	鯉淵営業所～河和田小学校～水戸駅線の運行 ※車両減価償却費等国庫補助活用	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・翼保育園、鯉淵小学校でバスの乗り方教室を実施(R04.11) ・友部第二小でバスの乗り方教室を実施(R05.01) ・沿線施設へ時刻表設置の依頼 ・水戸市と連携し、中学3年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)2,125部 ・沿線施設の茨城歯科専門学校や鯉淵学園での定期券出張販売を実施(R05.04) ・バスロケサービスの周知活動	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【目標】 ○1日当り輸送量 29.2人 ○収支率 68.29% ○収入増 230千円/年 ○輸送人員 1,110人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 33.2人(+4.0人) ○収支率 70.97%(+2.68%) ○収入 15,408千円(+13.60%) ○輸送人員 73,285人(+12.03%) 輸送量、収支率、収入、輸送人員とも目標を達成した。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考
							評価結果	
茨城県地域交通政策推進協議会	茨城交通株式会社	鯉淵営業所～若林～水戸駅線の運行 ※車両減価償却費等国庫補助活用	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・翼保育園、鯉淵小学校でバスの乗り方教室を実施(R04.11) ・友部第二小でバスの乗り方教室を実施(R05.01) ・沿線施設へ時刻表設置の依頼 ・水戸市と連携し、中学三年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)2,125部 ・沿線施設の茨城歯科専門学校や鯉淵学園での定期券出張販売を実施(R05.04) ・バスロケサービスの周知活動	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【目標】 ○1日当り輸送量 15.4人 ○収支率 72.50% ○収入増 110千円/年 ○輸送人員 483人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 17.0人(+1.6人) ○収支率 75.48%(+2.98%) ○収入 7,989千円(+12.38%) ○輸送人員 35,788人(+17.33%) 輸送量、収支率、収入、輸送人員とも目標を達成した。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。		
	茨城交通株式会社	水戸駅～飯富～石塚車庫線の運行	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・城里町との連携で沿線中学生への時刻表チラシの配布 ・水戸市・城里町と連携し、中学三年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)2,265部 ・城里町との連携で町内全戸へ時刻表チラシの配布(R05.03) ・城里町との連携で城里コミュニティセンターにてICカードの出張販売を実施(月1回) ・高校、大学で定期券出張販売を実施(R05.04) ・バスロケサービスの周知活動	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【目標】 ○1日当り輸送量 32.6人 ○収支率 75.78% ○収入増 330千円/年 ○輸送人員 1,207人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 37.1人(+4.5人) ○収支率 79.91%(+4.13%) ○収入 24,780千円(+11.80%) ○輸送人員 94,061人(+16.76%) 輸送量、収支率、収入、輸送人員とも目標を達成した。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。		
	茨城交通株式会社	太田営業所～竜神大吊橋～馬次入口線の運行 ※車両減価償却費等国庫補助活用	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・マイ時刻表の継続配布 ・常陸太田市との連携で、中学生向け年間フリー乗車券の配布(1～3年生約940名)(R05.04) ・常陸太田市・日立市と連携し、中学三年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)1,689部 ・市内高校での定期券出張販売を実施(R05.04) ・その他:常陸太田市75歳以上高齢者の運賃半額助成制度の継続実施 ・その他:常陸太田市運転免許証自主返納者に対するバス運賃助成制度の継続実施	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】 ○1日当り輸送量 3.7人 ○収支率 18.49% ○収入増 200千円/年 ○輸送人員 872人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 4.3人(+0.6人) ○収支率 11.93%(△6.56%) ○収入 2,095千円(+12.27%) ○輸送人員 8,292人(+5.70%) 収支率以外は目標を達成した。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における	備考
							二次評価結果	
							評価結果	
茨城県地域交通政策推進協議会	茨城交通株式会社	茨大前営業所～薬師台～東中根団地線の運行	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・ひたちなか市内の各種イベント(産業交流フェア、TAMARIBA横丁など)に参加しチラシを配布 ・水戸市・ひたちなか市と連携し、中学三年生へ定期券案内チラシの配布(R05.02)3,481部 ・商業施設でららがきバスを実施しチラシを配布(R05.03) ・ひたちなか市と連携し、市報へ定期券販売促進記事掲載(R05.03) ・市内高校にて定期券出張販売を実施(R05.04) ・バスロケサービスの周知活動	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 【目標】 ○1日当り輸送量 22.9人 ○収支率 85.63% ○収入増 200千円/年 ○輸送人員 964人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 26.6人(+3.7人) ○収支率 90.51%(+4.88%) ○収入 17,928千円(+12.85%) ○輸送人員 82,892人(+12.83%) 輸送量、収支率、収入、輸送人員とも目標を達成した。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。	
	茨城交通株式会社	馬場八幡前～大橋～大甕駅西口線の運行 ※車両減価償却費等国庫補助活用	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・日立市のお出かけ支援事業に協力し、お得な路線バスカードを販売 ・常陸太田市高齢者運賃助成制度 高齢者運賃半額制度の継続実施 ・運転免許証自主返納者支援事業 運転免許証自主返納者に対するバス運賃助成制度の継続実施 ・日立市内の路線バス通学定期券助成制度活用(令和4年度) ・バスロケーションシステム周知活動 ・(定期券購入者増に向けた取り組み) 新年度(4月)に向け中学三年生へ定期券購入案内文書を配布	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】 ○1日当り輸送量 36.7人 ○収支率 43.74% ○収入増 590千円/年 ○輸送人員 1,966人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 35.7人(△1.0人) ○収支率 37.43%(△6.31%) ○収入 20,250千円(△0.89%) ○輸送人員 67,293人(+0.06%) 輸送人員以外は目標には届かなかった。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。	
	茨城交通株式会社	馬場八幡前～はたそめ入口～真弓ヶ丘～大甕駅西口線の運行 ※車両減価償却費等国庫補助活用	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・日立市のお出かけ支援事業に協力し、お得な路線バスカードを販売 ・常陸太田市高齢者運賃助成制度 高齢者運賃半額制度の継続実施 ・運転免許証自主返納者支援事業 運転免許証自主返納者に対するバス運賃助成制度の継続実施 ・日立市内の路線バス通学定期券助成制度活用(令和4年度) ・バスロケーションシステム周知活動 ・(定期券購入者増に向けた取り組み) 新年度(4月)に向け中学三年生へ定期券購入案内文書を配布	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 【目標】 ○1日当り輸送量 45.9人 ○収支率 44.80% ○収入増 740千円/年 ○輸送人員 2,715人増/年 【結果】 ○1日当り輸送量 49.8人(+3.9人) ○収支率 40.83%(△3.97%) ○収入 28,029千円(+5.74%) ○輸送人員 101,480人(+5.04%) 輸送量、収支率、収入、輸送人員とも目標を達成した。	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考																
							評価結果																	
茨城県地域交通政策推進協議会	茨城交通株式会社	日立駅中央口～砂沢～十王駅前線の運行	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・日立市のお出かけ支援事業に協力し、お得な路線バスカードを販売 ・運転免許証自主返納者支援事業 運転免許証自主返納者に対するバス運賃助成制度の継続実施 ・日立市内の路線バス通学定期券助成制度活用(令和4年度) ・バスロケーションシステム周知活動 ・(定期券購入者増に向けた取り組み) 新年度(4月)に向け中学3年生へ定期券購入案内文書を配布	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1日当り輸送量 17.6人 ○収支率 63.06% ○収入増 170千円/年 ○輸送人員 837人増/年 <p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1日当り輸送量 19.7人(+2.1人) ○収支率 63.93%(+0.87%) ○収入 10,557千円(+12.86%) ○輸送人員 50,919人(+13.26%) <p>輸送人員以外は目標には届かなかった。</p>	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。																
	茨城交通株式会社	日立駅中央口～国道6号～十王駅前線の運行	乗降調査をもとに需要動向を把握するとともに、引き続き利用促進策を実施。 ・日立市のお出かけ支援事業に協力し、お得な路線バスカードを販売 ・運転免許証自主返納者支援事業 運転免許証自主返納者に対するバス運賃助成制度の継続実施 ・日立市内の路線バス通学定期券助成制度活用(令和4年度) ・バスロケーションシステム周知活動 ・(定期券購入者増に向けた取り組み) 新年度(4月)に向け中学3年生へ定期券購入案内文書を配布	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1日当り輸送量 17.9人 ○収支率 58.84% ○収入増 200千円/年 ○輸送人員 907人増/年 <p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1日当り輸送量 17.9人(±0人) ○収支率 52.80%(△6.04%) ○収入 10,185千円(+0.89%) ○輸送人員 45,569人(+1.12%) <p>収支率以外は目標を達成した。</p>	県・沿線市・関係機関との連携をこれまで以上に密にし、バス利用案内の呼びかけ、啓発活動を行う。 自社においても広報宣伝活動を強化し、利用客の掘り起しを図る。 アフターコロナによる利用動向を注視し、効率的な運行ダイヤの見直しを検討する。																
	関東鉄道株式会社	水戸駅～奥ノ谷～石岡駅の運行	・土日祝日限定一日乗車券を発売し、利用の少ない土日祝日の利用促進を行った。 ・IC金額式定期券を発売し利用促進を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>(目標)</td> <td>(実績)</td> </tr> <tr> <td>輸送人員</td> <td>903人増</td> <td>753人増</td> </tr> <tr> <td>輸送量</td> <td>31.0人</td> <td>20.8人</td> </tr> <tr> <td>運送収入</td> <td>304千円増</td> <td>9251千円減</td> </tr> <tr> <td>経常収支率</td> <td>85.5%</td> <td>73.5%</td> </tr> </table> <p>運送収入減少の要因は、通学需要と遠距離利用の減少が考えられる。</p>		(目標)	(実績)	輸送人員	903人増	753人増	輸送量	31.0人	20.8人	運送収入	304千円増	9251千円減	経常収支率	85.5%	73.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線自治体や施設との連携を密にし、効果的な利用促進策を実施する。 ・ICカード利用データ等を活用し利用実態を把握したうえで効率的な運行ダイヤを設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況については、概ね目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に務めること。 ・ICカードの利用データ等による利用状況をもとに市町や関係機関と連携し企画乗車券やダイヤ編成など閑散期となる土日祝日の利用促進策を実施したことは評価できる。引き続き生産性向上の取組を実施することが望ましい。
		(目標)	(実績)																					
輸送人員	903人増	753人増																						
輸送量	31.0人	20.8人																						
運送収入	304千円増	9251千円減																						
経常収支率	85.5%	73.5%																						
関東鉄道株式会社	筑波山口～土浦～高前～土浦駅西口の運行	・宝篋山ハイキングモデルコースを設定、ホームページでPRし、観光需要の掘り起こしを行った。 ・車内に自転車を持ち込めるつくば霞ヶ浦りんりんバスを運行し、サイクリング需要の掘り起こしを行った。 ・沿線高校の新生入生に対し、IC金額式定期券の利便性をPRする説明会を開催した。 ・土日祝日ダイヤについて、利用実態に合わせた便数を設定し、路線収支の改善を図った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	<table border="0"> <tr> <td></td> <td>(目標)</td> <td>(実績)</td> </tr> <tr> <td>輸送人員</td> <td>1043人増</td> <td>4595人増</td> </tr> <tr> <td>輸送量</td> <td>38.4人</td> <td>30.5人</td> </tr> <tr> <td>運送収入</td> <td>303千円増</td> <td>5802千円減</td> </tr> <tr> <td>経常収支率</td> <td>47.3%</td> <td>42.9%</td> </tr> </table> <p>運送収入減少の要因は、通学需要と遠距離利用の減少が考えられる。</p>		(目標)	(実績)	輸送人員	1043人増	4595人増	輸送量	38.4人	30.5人	運送収入	303千円増	5802千円減	経常収支率	47.3%	42.9%	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線自治体や施設との連携を密にし、効果的な利用促進策を実施する。 ・ICカード利用データ等を活用し利用実態を把握したうえで効率的な運行ダイヤを設定する。 		
	(目標)	(実績)																						
輸送人員	1043人増	4595人増																						
輸送量	38.4人	30.5人																						
運送収入	303千円増	5802千円減																						
経常収支率	47.3%	42.9%																						

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における	備考															
							二次評価結果																
							評価結果																
茨城県地域交通政策推進協議会	関東鉄道株式会社	水海道駅～みどりの駅・農林団地中央～土浦駅西口の運行	<ul style="list-style-type: none"> ・土日祝日限定一日乗車券を発売し、利用の少ない土日祝日の利用促進を行った。 ・IC金額式定期券を発売し利用促進を行った。 ・沿線高校の新入生に対し、IC金額式定期券の利便性をPRする説明会を開催した。 ・沿線でバス停スタンプラリーを開催し利用促進を図った。 	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(目標)</th> <th>(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>輸送人員</td> <td>757人増</td> <td>28338人増</td> </tr> <tr> <td>輸送量</td> <td>15.5人</td> <td>22.0人</td> </tr> <tr> <td>運送収入</td> <td>132千円増</td> <td>5171千円増</td> </tr> <tr> <td>経常収支率</td> <td>46.5%</td> <td>56.8%</td> </tr> </tbody> </table>		(目標)	(実績)	輸送人員	757人増	28338人増	輸送量	15.5人	22.0人	運送収入	132千円増	5171千円増	経常収支率	46.5%	56.8%	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線自治体や施設との連携を密にし、効果的な利用促進策を実施する。 ・ICカード利用データ等を活用し利用実態を把握したうえで効果的な運行ダイヤを設定する。 	
		(目標)	(実績)																				
	輸送人員	757人増	28338人増																				
	輸送量	15.5人	22.0人																				
	運送収入	132千円増	5171千円増																				
	経常収支率	46.5%	56.8%																				
	関東鉄道株式会社	みどりの駅～農林団地中央・学園並木～土浦駅西口の運行	<ul style="list-style-type: none"> ・土日祝日限定一日乗車券を発売し、利用の少ない土日祝日の利用促進を行った。 ・IC金額式定期券を発売し利用促進を行った。 ・沿線高校の新入生に対し、IC金額式定期券の利便性をPRする説明会を開催した。 ・沿線でバス停スタンプラリーを開催し利用促進を図った。 	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(目標)</th> <th>(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>輸送人員</td> <td>346人増</td> <td>36498人増</td> </tr> <tr> <td>輸送量</td> <td>13.4人</td> <td>15.6人</td> </tr> <tr> <td>運送収入</td> <td>88千円増</td> <td>1422千円増</td> </tr> <tr> <td>経常収支率</td> <td>37.2%</td> <td>37.3%</td> </tr> </tbody> </table>		(目標)	(実績)	輸送人員	346人増	36498人増	輸送量	13.4人	15.6人	運送収入	88千円増	1422千円増	経常収支率	37.2%	37.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線自治体や施設との連携を密にし、効果的な利用促進策を実施する。 ・ICカード利用データ等を活用し利用実態を把握したうえで効果的な運行ダイヤを設定する。 	
	(目標)	(実績)																					
輸送人員	346人増	36498人増																					
輸送量	13.4人	15.6人																					
運送収入	88千円増	1422千円増																					
経常収支率	37.2%	37.3%																					
関東鉄道株式会社	岩井バスターミナル～きぬの里～守谷駅西口間の運行	<ul style="list-style-type: none"> ・土日祝日限定一日乗車券を発売し、利用の少ない土日祝日の利用促進を行った。 ・IC金額式定期券を発売し利用促進を行った。 ・沿線の茨城県自然博物館と連携した企画乗車券を発売し利用促進を図った。 	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(目標)</th> <th>(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>輸送人員</td> <td>540人増</td> <td>36100人増</td> </tr> <tr> <td>輸送量</td> <td>21.1人</td> <td>23.9人</td> </tr> <tr> <td>運送収入</td> <td>147千円増</td> <td>1820千円増</td> </tr> <tr> <td>経常収支率</td> <td>62.9%</td> <td>64.1%</td> </tr> </tbody> </table>		(目標)	(実績)	輸送人員	540人増	36100人増	輸送量	21.1人	23.9人	運送収入	147千円増	1820千円増	経常収支率	62.9%	64.1%	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線自治体や施設との連携を密にし、効果的な利用促進策を実施する。 ・ICカード利用データ等を活用し利用実態を把握したうえで効果的な運行ダイヤを設定する。 		
	(目標)	(実績)																					
輸送人員	540人増	36100人増																					
輸送量	21.1人	23.9人																					
運送収入	147千円増	1820千円増																					
経常収支率	62.9%	64.1%																					
関東鉄道株式会社	牛久駅～森の里～緑が丘団地の運行	<ul style="list-style-type: none"> ・土日祝日限定一日乗車券を発売し、利用の少ない土日祝日の利用促進を行った。 ・IC金額式定期券を発売し利用促進を行った。 	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(目標)</th> <th>(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>輸送人員</td> <td>360人増</td> <td>13346人減</td> </tr> <tr> <td>輸送量</td> <td>14.9人</td> <td>5.2人</td> </tr> <tr> <td>運送収入</td> <td>80千円増</td> <td>5181千円減</td> </tr> <tr> <td>経常収支率</td> <td>33.6%</td> <td>24.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>輸送人員減少の要因は、沿線住宅地の高齢化に伴う就労人口減少によるものと考えられる。</p>		(目標)	(実績)	輸送人員	360人増	13346人減	輸送量	14.9人	5.2人	運送収入	80千円増	5181千円減	経常収支率	33.6%	24.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線自治体や施設との連携を密にし、効果的な利用促進策を実施する。 ・ICカード利用データ等を活用し利用実態を把握したうえで効果的な運行ダイヤを設定する。 		
	(目標)	(実績)																					
輸送人員	360人増	13346人減																					
輸送量	14.9人	5.2人																					
運送収入	80千円増	5181千円減																					
経常収支率	33.6%	24.4%																					
関東鉄道株式会社	藤代駅～自由ヶ丘団地の運行	<ul style="list-style-type: none"> ・IC金額式定期券を発売し利用促進を行った。 	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(目標)</th> <th>(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>輸送人員</td> <td>187人増</td> <td>10752人増</td> </tr> <tr> <td>輸送量</td> <td>14.8人</td> <td>7.3人</td> </tr> <tr> <td>運送収入</td> <td>53千円増</td> <td>2752千円減</td> </tr> <tr> <td>経常収支率</td> <td>39.8%</td> <td>35.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>運送収入の減少は、一人平均乗車キロや定期外利用の減少に伴う単価減によるものと考えられる。</p>		(目標)	(実績)	輸送人員	187人増	10752人増	輸送量	14.8人	7.3人	運送収入	53千円増	2752千円減	経常収支率	39.8%	35.7%	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線自治体や施設との連携を密にし、効果的な利用促進策を実施する。 ・ICカード利用データ等を活用し利用実態を把握したうえで効果的な運行ダイヤを設定する。 		
	(目標)	(実績)																					
輸送人員	187人増	10752人増																					
輸送量	14.8人	7.3人																					
運送収入	53千円増	2752千円減																					
経常収支率	39.8%	35.7%																					
関東鉄道株式会社	牛久駅～桜ヶ丘団地～みどりの駅の運行	<ul style="list-style-type: none"> ・土日祝日限定一日乗車券を発売し、利用の少ない土日祝日の利用促進を行った。 ・IC金額式定期券を発売し利用促進を行った。 	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(目標)</th> <th>(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>輸送人員</td> <td>1098人増</td> <td>167529人増</td> </tr> <tr> <td>輸送量</td> <td>49.3人</td> <td>62.0人</td> </tr> <tr> <td>運送収入</td> <td>283千円増</td> <td>7071千円増</td> </tr> <tr> <td>経常収支率</td> <td>64.2%</td> <td>67.3%</td> </tr> </tbody> </table>		(目標)	(実績)	輸送人員	1098人増	167529人増	輸送量	49.3人	62.0人	運送収入	283千円増	7071千円増	経常収支率	64.2%	67.3%	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線自治体や施設との連携を密にし、効果的な利用促進策を実施する。 ・ICカード利用データ等を活用し利用実態を把握したうえで効果的な運行ダイヤを設定する。 		
	(目標)	(実績)																					
輸送人員	1098人増	167529人増																					
輸送量	49.3人	62.0人																					
運送収入	283千円増	7071千円増																					
経常収支率	64.2%	67.3%																					
関東鉄道株式会社	取手駅西口～高岡～谷田部車庫の運行	<ul style="list-style-type: none"> ・土日祝日限定一日乗車券を発売し、利用の少ない土日祝日の利用促進を行った。 ・IC金額式定期券を発売し利用促進を行った。 ・土日祝日ダイヤについて、利用実態に合わせた便数を設定し、路線収支の改善を図った。 	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>(目標)</th> <th>(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>輸送人員</td> <td>777人増</td> <td>4146人増</td> </tr> <tr> <td>輸送量</td> <td>25.8人</td> <td>16.7人</td> </tr> <tr> <td>運送収入</td> <td>196千円増</td> <td>6194千円減</td> </tr> <tr> <td>経常収支率</td> <td>55.2%</td> <td>36.4%</td> </tr> </tbody> </table> <p>運送収入の減少は、一人平均乗車キロや定期外利用の減少に伴う単価減によるものと考えられる。</p>		(目標)	(実績)	輸送人員	777人増	4146人増	輸送量	25.8人	16.7人	運送収入	196千円増	6194千円減	経常収支率	55.2%	36.4%	<ul style="list-style-type: none"> ・沿線自治体や施設との連携を密にし、効果的な利用促進策を実施する。 ・ICカード利用データ等を活用し利用実態を把握したうえで効果的な運行ダイヤを設定する。 		
	(目標)	(実績)																					
輸送人員	777人増	4146人増																					
輸送量	25.8人	16.7人																					
運送収入	196千円増	6194千円減																					
経常収支率	55.2%	36.4%																					

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における	備考	
							二次評価結果		
							評価結果		
茨城県地域交通政策推進協議会	関東鉄道株式会社	荒川沖駅東口～東京医大茨城医療センター～県立医療大学の運行	・土日祝日限定一日乗車券を発売し、利用の少ない土日祝日の利用促進を行った。 ・IC金額式定期券を発売し利用促進を行った。 ・土日祝日ダイヤについて、利用実態に合わせた便数を設定し、路線収支の改善を図った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	(目標) (実績) 輸送人員 436人増 52148人増 輸送量 28.0人 24.0人 運送収入 105千円増 1239千円減 経常収支率 55.6% 57.6% 輸送量減少の要因は、R5.4.1に土日祝日ダイヤの減便を行ったため。	・沿線自治体や施設との連携を密にし、効果的な利用促進策を実施する。 ・ICカード利用データ等を活用し利用実態を把握したうえで効率的な運行ダイヤを設定する。	
	関東鉄道株式会社	龍ヶ崎市駅～済生会病院～江戸崎の運行	・沿線自治体と貨客混載の業務提携を行い、収益力の強化を図った。 ・土日祝日限定一日乗車券を発売し、利用の少ない土日祝日の利用促進を行った。 ・IC金額式定期券を発売し利用促進を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	(目標) (実績) 輸送人員 127人増 12945人増 輸送量 6.0人 3.2人 運送収入 51千円増 2120千円減 経常収支率 25.0% 13.0% 運送収入減少の要因は、遠距離利用者の減少が考えられる。	・沿線自治体や施設との連携を密にし、効果的な利用促進策を実施する。 ・ICカード利用データ等を活用し利用実態を把握したうえで効率的な運行ダイヤを設定する。	
	関東鉄道株式会社	竜ヶ崎駅～光風台団地入口～取手駅の運行	・土日祝日限定一日乗車券を発売し、利用の少ない土日祝日の利用促進を行った。 ・IC金額式定期券を発売し利用促進を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B	(目標) (実績) 輸送人員 702人増 21948人増 輸送量 21.8人 14.4人 運送収入 124千円増 4135千円減 経常収支率 42.4% 33.5% 運送収入減少の要因は、遠距離利用者の減少が考えられる。	・沿線自治体や施設との連携を密にし、効果的な利用促進策を実施する。 ・ICカード利用データ等を活用し利用実態を把握したうえで効率的な運行ダイヤを設定する。	
	関東鉄道株式会社	鹿島神宮駅～神栖済生会病院～銚子駅の運行	・土日祝日限定一日乗車券を発売し、利用の少ない土日祝日の利用促進を行った。 ・IC金額式定期券を発売し利用促進を行った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	(目標) (実績) 輸送人員 750人増 22375人増 輸送量 27.7人 32.3人 運送収入 360千円増 7420千円増 経常収支率 57.1% 59.5%	・沿線自治体や施設との連携を密にし、効果的な利用促進策を実施する。 ・ICカード利用データ等を活用し利用実態を把握したうえで効率的な運行ダイヤを設定する。	
	関東鉄道株式会社	つくばセンター～石岡～水戸駅南口の運行	・沿線商業施設と利用特典等の連携を行い、利用促進を図った。 ・沿線施設でのイベント開催時における利用促進広告を掲示した。 ・水戸京成百貨店と貨客混載の業務提携を行い、収益力の強化を図った。	A	事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	A	(目標) (実績) 輸送人員 539人増 49203人増 輸送量 57.3人 57.0人 運送収入 451千円増 2131千円増 経常収支率 61.2% 66.60%	・沿線自治体や施設との連携を密にし、効果的な利用促進策を実施する。 ・ICカード利用データ等を活用し利用実態を把握したうえで効率的な運行ダイヤを設定する。	
	関東グリーンバス株式会社	柿岡車庫～石岡駅の運行	初回のため省略	B	計画上の実施項目である石岡駅前で利用促進のチラシ配布が実施検討中であるため	B	輸送量の目標値は達成されたが(33.8→36.5)、収支率の目標値が達成できなかった(77.7%→73.55%)。	更なる利用促進・PRの実施。土日祝日限定の一日乗車券発売の継続	・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況については、概ね目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に務めること。
	関東グリーンバス株式会社	柿岡車庫～土浦駅の運行	初回のため省略	B	計画上の実施項目である石岡駅前で利用促進のチラシ配布が実施検討中であるため	B	収支率の目標値は達成されたが(76.3%→81.57%)、輸送量の目標値が達成できなかった(18.4→17.4)。	更なる利用促進・PRの実施。土日祝日限定の一日乗車券発売の継続	・利用状況をもとにダイヤ編成や観光需要喚起のための土日祝日限定の企画乗車券の販売など利用促進策を実施したことは評価できる。引き続き生産性向上の取組を実施することが望ましい。
	関東グリーンバス株式会社	茨城空港～水戸駅の運行	初回のため省略	B	計画上の実施項目である水戸駅前で利用促進のチラシ配布が実施検討中であるため	A	輸送量の目標値を達成し(18.7→21.0)、収支率の目標値も達成した(81.5%→90.25%)。	更なる利用促進・PRの実施。土日祝日限定の一日乗車券発売の継続	

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考	
							評価結果		
茨城県地域交通政策推進協議会	朝日自動車株式会社	境車庫～釈迦～古河駅西口の運行	①令和4年9月～10月と令和5年3月～4月の共通学生フリーパス販売時期に合わせ沿線学校や、自社ホームページ及びバス車内で周知し、販売促進を図った。 ②茨城西南医療センターへの路線延伸について関係自治体と検討したが未実施。 ③新型コロナウイルス感染症の影響により利用状況が変更しているためダイヤ改正は見送った。	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業が計画に位置づけられたとおり実施することができなかった。	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き共通学生フリーパスの販売促進を図る。 西南医療センターへの路線延伸を引き続き検討する。 引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施し安心して利用できるバス車内の環境保持に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 目標・効果達成状況については、目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に努めること。 観光客を含めた交流人口への利用促進策については、アフターコロナにおける利用状況等の検証を行うとともに、来訪者の動向を調査し分析を行った上で、効果的な利用促進策の検討を進めていくことが望ましい。 	
	朝日自動車株式会社	五霞町役場～幸手駅の運行 〔起点〕 五霞町役場 〔主な経由地〕 桜まつり会場(まつり開催時) 〔終点〕 幸手駅	①桜まつりが開催され、多くのお客様にご乗車いただいた。また、桜以外の季節の花を目標にしたお客様にご乗車いただいた。 ②渋滞が発生し、定時運行に大きな影響が出た。 ③令和4年11月、五霞町のイベントに合わせて乗り方教室を実施した。 ④関係自治体と検討中。 ⑤関係自治体と検討中。なお、令和6年秋以降数年間にわたり、橋梁架け替え工事による迂回運行を実施予定。 ⑥車内換気及び消毒等を実施。	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の事業が計画に位置づけられたとおり実施することができなかった。	A	<ul style="list-style-type: none"> 桜まつり開催時は渋滞が発生するため、関係各所と連携したバスの定時性確保を図り利用増に繋げる。 バスの乗り方教室を実施し需要の掘り起しを図る。 利用実態に合わせたダイヤ改正の実施。 橋梁架け替え工事による迂回ルートの検討。 引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施し安心して利用できるバス車内の環境保持に努める。 		
	茨城急行自動車株式会社	古河駅東口～古河第一高校前～友愛記念病院の運行	感染症拡大により利用者が減少の中でも感染予防策を講じ継続的に車内、沿線学校等での時刻表の配布を行い利用促進及び経費の削減で目標の達成を図る。	A	計画通り事業は適切に実施されている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 【目標】収支率を1%改善させる。(R4年度収支率29.8%) 【効果達成状況】前年度より、収支率は10.6%増の40.4%に改善。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 目標・効果達成状況については、目標を達成しており評価できる。結果の要因を分析し、需要動向や事業の実施状況の把握に努めること。 	
	茨城急行自動車株式会社	古河駅東口～牛ヶ谷～八千代町役場の運行	感染症拡大により利用者が減少の中でも感染予防策を講じ継続的に車内、沿線学校等での時刻表の配布を行い利用促進及び経費の削減で目標の達成を図る。	A	計画通り事業は適切に実施されている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 【目標】収支率を1%改善させる。(R4年度収支率44.7%) 【効果達成状況】前年度より、収支率は17.0%増の61.7%に改善。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き共通学生フリーパスの販売を実施するとともに、学生以外の利用状況等の検証を行った上で効果的な利用促進策についても検討することが望ましい。 	
	茨城急行自動車株式会社	古河駅東口～牛ヶ谷～三和庁舎の運行	感染症拡大により利用者が減少の中でも感染予防策を講じ継続的に車内、沿線学校等での時刻表の配布を行い利用促進及び経費の削減で目標の達成を図る。	A	計画通り事業は適切に実施されている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 【目標】収支率を1%改善させる。(R4年度収支率43.7%) 【効果達成状況】前年度より、収支率は22.5%増の66.2%に改善。 		
	茨城急行自動車株式会社	古河駅東口～丘里工業団地～三和庁舎の運行	感染症拡大により利用者が減少の中でも感染予防策を講じ継続的に車内、沿線学校等での時刻表の配布を行い利用促進及び経費の削減で目標の達成を図る。	A	計画通り事業は適切に実施されている。	A	<ul style="list-style-type: none"> 【目標】収支率を1%改善させる。(R4年度収支率51.1%) 【効果達成状況】前年度より、収支率は24.1%増の75.2%に改善。 		

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考
							評価結果	
茨城県 政策推進 協議会 茨城 交通 協同	茨城急行自動車株式会社	野田市駅～下町～岩井車庫の運行	感染症拡大により利用者が減少の中でも感染予防策を講じ継続的に車内、沿線学校等での時刻表の配布を行い利用促進及び経費の削減で目標の達成を図る。	B 乗り方教室は行えなかったが他は計画通り事業は適切に実施されている。	A 【目標】収支率を1%改善させる。(R4年度収支率74.7%) 【効果達成状況】前年度より、収支率は6.1%増の80.8%に改善。	将来的な通勤利用者を確保するため、時刻表の配布等による共通学生フリーバスの販売促進策を実施及び経費の削減で目標の達成を図る。		
<p>第三者委員会における各委員からの意見</p> <p>令和5年度地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会における委員による以下の助言は、今後の取組みを行う上で必要な観点であり、考慮されたい。</p> <p>○コロナ後の動向や人手不足など様々な側面で今が変わり目である。</p> <p>○地域とコミュニケーションをとりながら、データに基づき地域全体の将来像を打ち出し具体的な目標を立てて、成果や課題など数字で示すことが重要。</p>								